

開催案内

マンスリーセミナー

415 回	12/19 (火)	太陽電池セル・モジュールの最新業界動向 および技術開発動向	明治大学 特任教授 中村 京太郎 氏
(内容) 今、太陽電池は大きな技術的転換点に差し掛かっている。現在の主流である従来型(Conventional)結晶シリコン太陽電池は広く普及しており製造コストも安いが変換効率20%を超える高効率を実現することは難しい。このため Conventional 太陽電池のシェアは今後徐々に低下していくと予想される。これに対して今後シェアが伸びていくと考えられるのは裏面パッシベーション型(Passivated Emitter and Rear Cell : PERC)や、ヘテロ接合およびバックコンタクト型といった高効率太陽電池である。特に PERC は Conventional 太陽電池に代わって今後の主流となっていくと予想される。講演では大きく変革しつつある太陽電池の技術開発動向および最新業界動向を概説する。			
416 回	1/16 (火)	空間多重光伝送技術の進展 ～光通信も「京」の時代へ～	株式会社KDDI総合研究所 執行役員 森田 逸郎 氏
(内容) 繙続的に増加する通信トラヒックを収容し、高信頼で経済的な通信サービスを提供し続けるためには、それを支える光伝送システムの大容量化が不可欠となる。しかし、従来の光ファイバでは、入力可能光パワーの制約等により、これまで以上の大容量化は物理的な限界に近づいている。このような限界を打破するための技術として、マルチコアファイバやマルチモードファイバを用いる空間多重光伝送技術の研究開発が活発に進められ、最近では、一本の光ファイバでの伝送容量記録を大幅に更新する 10Pbit/s 伝送実験も報告されている。本セミナーでは、空間多重光伝送技術の概要と共に、その代表的な成果を紹介し、技術の進展について述べる。			
417 回	2/20 (火)	デジタルコヒーレントシステムを支える波長可変光源の現状と関連デバイスの将来動向	古河電気工業株式会社 研究開発本部 情報通信・エネルギー研究所 フォトニックデバイス開発部 部長 向原 智一 氏
(内容) 2010 年代前半から、デジタル信号処理を用いてコヒーレント検波を実現する「デジタルコヒーレント通信」方式を用いた 100Gbit/s 大容量伝送システムの導入が進んだ。本セミナーでは、デジタルコヒーレント通信用狭線幅波長可変光源の基本動作原理、技術動向を紹介する。今後 IoT に代表される、あらゆるモノがつながるネットワーク、自動運転、高速・低遅延 5G ネットワークなどが注目され、ワイヤレスバックボーンや、クラウド・エッジコンピューティングの拡大が検討されている。そこで現在議論されているメトロ・データセンタ領域へのデジタルコヒーレント技術適用、小型、低消費電力、低コスト光源の最新技術動向を紹介する。			

最新情報は光産業技術振興協会のマンスリーセミナーのページをご覧下さい。

会 場：光産業技術振興協会（有楽町線 江戸川橋駅 3番出口）
東京都文京区関口1-20-10 住友江戸川橋駅前ビル7階
時 間：午後3時30分～5時30分
定 員：60名（申込先着順）
<http://www.oitda.or.jp/main/monthly-j.html>

参 加 料：協会賛助会員：1,500円（1回につき・消費税込）
一般参加：3,000円（1回につき・消費税込）
申 込 先：光産業技術振興協会 開発部 間瀬
TEL：(03)5225-6431 FAX：(03)5225-6435
E-mail：mly@oitda.or.jp